

アゾキシストロビン (案)

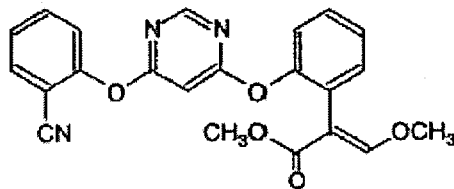
1. 品目名：アゾキシストロビン (Azoxystrobin)

2. 用途：殺菌剤

ストロビルリン系殺菌剤である。エネルギー生成に重要な役割を果たしているミトコンドリアの電子伝達系の中のコハク酸-C_oQリダクターゼ間の電子伝達を阻害することにより作用すると考えられる。

3. 化学名：メチル= (E) -2- {2- [6- (2-シアノフェノキシ) ピリミジン-4-イルオキシ] フェニル} -3-メトキシアクリラート

4. 構造式及び物性



分子式	C ₂₂ H ₁₇ N ₃ O ₅
分子量	403.4
水溶解度	6.0 mg/L (20°C)
分配係数	logPow=2.5 (20°C)

(メーカー提出資料より)

5. 適用病害虫の範囲及び使用方法

本薬の適用病害虫の範囲及び使用方法は以下のとおり。

作物名となっているものについては、今回農薬取締法（昭和 23 年法律第 82 号）に基づく適用拡大申請がなされたものを示している。

また、申請者から、「国外で使用される農薬等に係る残留基準の設定及び改正に関する指針について」（平成 16 年 2 月 5 日付け食安発第 0205001 号）に基づき、コーヒー豆に設定されている残留基準の変更が要請されている。

(1) 国内における使用方法

①20.0%アゾキシストロピン水和剤 (フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロピン を含む農薬の 総使用回数	
小麦	紅色雪腐病	原液	4~8mL/ 乾燥種子 1kg	は種前	1回	種子吹き 付け処理	4回以内 (種子への処 理は1回以 内、は種後は 3回以内)	
	うどんこ病 赤かび病 赤さび病	2000~ 3000倍	100~200 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内 (無人ヘリ コプター による散 布)	
だいず	紫斑病	16~ 24倍	100~400 L/10a					800mL/10a
	あずき	2000倍	100~400 L/10a	腐敗粒 べと病	100~400 L/10a	収穫7日前まで	3回以内	
いんげんまめ	炭疽病		60~200 L/10a					3回以内
エンダイブ	菌核病		100~400 L/10a					
きゅうり	うどんこ病 べと病	1500~ 2000倍	100~ 400L/10a	収穫21日前まで	1回	散布	4回以内	
	灰色かび病 菌核病	1500倍						
	褐斑病、炭疽病	2000倍						
にがうり	うどんこ病 べと病、炭疽病	2000倍	100~ 400L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	3回以内	
うり類 (漬物用)	うどんこ病 つる枯れ病 べと病、炭疽病	1500~ 2000倍						4回以内
メロン	うどんこ病 つる枯れ病 べと病	2000倍	100~ 400L/10a	収穫7日前まで	3回以内	散布	4回以内	
				収穫前日まで				

①20.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希積 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数	
すいか	つる枯病 炭疽病	2000 倍	100～400 L/10a	収穫前日まで	4 回以内	散布	4 回以内	
トマト	葉かび病 灰色かび病							
なす	うどんこ病 すすかび病							
ピーマン	灰色かび病							
たまねぎ	灰色腐敗病 べと病							
らっきょう	さび病							3 回以内
ねぎ	さび病							4 回以内
わけぎ	べと病							
あさつき	黄斑病、黒斑病							
にら	白斑葉枯病							2 回以内
にんにく	さび病							3 回以内
だいこん	白さび病							
キャベツ	菌核病							4 回以内
はくさい	べと病 黒斑病 白さび病							
パセリ	うどんこ病							
みつば	灰色かび病							
みょうが (花穂)	紋枯病							3L/m ²
みょうが (茎葉)		みょうが(花穂)の 収穫 3 日前まで 但し、花穂を収穫し ない場合にあつては 開花期終了まで						
非結球 あぶらな科 葉菜類 (ただし、し ろな、チンゲ ンサイを除く)	白さび病	100～400 L/10a	収穫 21 日前まで		散布			

①20.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	アゾキシストロビンを含む農薬の総使用回数	
しろな	白さび病	2000倍	100～400 L/10a	収穫14日前まで	1回	散布	1回	
しそ	斑点病			収穫前日まで	2回以内	株元散布	2回以内	
クレソン				収穫21日前まで	3回以内	散布	3回以内	
葉ごぼう	うどんこ病			1回	1回		1回	
こおにたびらこ	菌核病							収穫30日前まで
ははこぐさ				葉枯病	3L/m ²	収穫7日前まで	4回以内	4回以内 (土壌灌注は2回以内)
せり	菌核病		収穫30日前まで	2回以内		土壌灌注		
レタス	灰色かび病	1500～ 2000倍	100～400 L/10a	収穫前日まで		散布	7回以内 (苗床では4回以内、本圃では3回以内)	
いちご	うどんこ病				1500～2000倍			苗床 4回以内
	炭疽病				2000倍			
	灰色かび病				1500倍			本圃 3回以内
うどんこ病	1500～2000倍							
炭疽病	2000倍							
灰色かび病	1500倍							
アスパラガス	茎枯病 斑点病 褐斑病	2000倍	100～400 L/10a	収穫前日まで	散布	4回以内		
ズッキーニ	うどんこ病						4回以内	
畑ワサビ (花穂を除く)	白さび病							2回以内
かぶ							うどんこ病	
オクラ	2回以内							
さやえんどう								収穫前日まで
実えんどう	3回以内							
てんさい		根腐病	1500～2000倍	3回以内				
	葉腐病、褐斑病	1500倍						
茶	炭疽病、輪斑病 新梢枯死病（輪斑病菌による）、もち病	2000倍	摘採14日前まで	3回以内				

②10.0%アゾキシストロビン水和剤（フロアブル）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数				
なし	黒星病 黒斑病 輪斑病 うどんこ病 炭疽病	1000 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	5 回以内	散布	5 回以内				
ぶどう	黒とう病 灰色かび病 べと病 枝膨病 晩腐病 褐斑病 さび病			収穫 45 日前まで	3 回以内						
おうとう	灰星病			収穫前日まで							
もも	灰星病										
ネクタリン	黒星病										
いちじく	そうか病 疫病										
すもも	灰星病 すす点病										
うめ	黒星病	1500 倍	200～700 L/10a	収穫前日まで	3 回以内	3 回以内					
パッションフルーツ	円斑病	1000 倍					収穫 7 日前まで				
かき	うどんこ病 落葉病 炭疽病 黒点病										
りんご (ふじ、王林、 ジョナゴールド、 つがる、千秋、 さんさ、紅玉、 シナノスイート、 昴林、涼香の季節)	うどんこ病										収穫 45 日前まで
びわ	炭疽病										収穫 7 日前まで

②10.0%アゾキシストロビン水和剤 (フロアブル) (つづき)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
マンゴー	炭疽病	1000 倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	1 回	散布	1 回
グアバ (果実)				収穫 7 日前まで	3 回以内		3 回以内
ピタヤ	炭腐病			収穫前日まで			

③8.0%アゾキシストロビン水和剤

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
稲	いもち病 紋枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	1000~ 1500 倍	100~200 L/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (育苗箱散布 は 1 回以内、 本田では 3 回以内)
	稲こうじ病 穂枯れ (すじ葉枯病菌) 変色米 (カーブラリア菌) 変色米 (エピコッカム菌) 変色米 (アルタナリア菌)	1000 倍					
	いもち病 紋枯病	原液					
		8 倍	800mL/10a				
		30 倍	3L/10a				
	いもち病 紋枯病	8 倍	800mL/10a			無人 ヘリコプター による散布	
300 倍		25L/10a	散布				

④1.5%アゾキシストロビン粒剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
稲	紋枯病	4kg/10a	出穂 10～30 日前	3 回以内	散布	4 回以内 (本田では 3 回以内)

⑤0.6%アゾキシストロビン粉剤

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシストロビン を含む農薬の 総使用回数
稲	紋枯病 穂枯れ (ごま葉枯病菌)	4kg/10a	収穫 14 日前まで	3 回以内	散布	4 回以内 (本田では 3 回以内)

⑥4.8%アゾキシストロビン・40.0%TPN水和剤 (フロアブル)

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方 法	アゾキシ ストロビ ンを含む 農薬の総 使用回数	TPNを 含む農薬 の総使用 回数
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 炭疽病 灰色かび病 菌核病 黒星病	1000 倍	100～400 L/10a	収穫前日まで	4 回以内	散布	4 回以内	10 回以内 (土壌灌注は 2回以内、 散布及びく ん煙及びエ アゾル剤の 噴射は合計 8回以内)
かぼちゃ	うどんこ病 べと病			収穫 7 日前まで	3 回以内			3 回以内
メロン	べと病 うどんこ病 つる枯病			収穫 3 日前まで	4 回以内			5 回以内

⑥4.8%アゾキシストロビン・40.0%TPN水和剤（フロアブル）（つづき）

作物名	適用 病害虫名	希釈 倍数	使用液量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法	アゾキシ ストロビ ンを含む 農薬の総 使用回数	TPNを 含む農薬 の総使用 回数	
すいか	炭疽病 つる枯病	1000 倍	100～400 L/10a	収穫 3 日前まで	4 回以内	散布	4 回以内	5 回以内	
トマト	疫病 葉かび病			収穫前日まで				4 回以内	4 回以内 (土壌灌注は 2 回以内)
なす	すすかび病 うどんこ病 褐色腐敗病 黒枯病			収穫 7 日前まで				2 回以内	3 回以内 (は種又は 定植前の土 壌混和は 1 回以内、散 布は 2 回以 内)
はくさい	べと病 白斑病 黒斑病			収穫 45 日前まで	3 回以内			3 回以内	
だいこん	白さび病			収穫 21 日前まで	2 回以内			5 回以内 (種子への 吹き付け処 理は 1 回以 内)	
にんじん	黒葉枯病			収穫 7 日前まで	4 回以内			6 回以内	
たまねぎ	灰色かび病 べと病			収穫 14 日前まで	2 回以内			4 回以内 (土壌灌注は 2 回以内、 散布は 2 回以内)	
ねぎ	べと病 さび病 黒斑病			収穫 7 日前まで	3 回以内			3 回以内	
にんにく	さび病							6 回以内	

(2) ブラジルにおける使用方法

作物名	適用 病害虫名	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用 方法
コーヒー	褐眼病 さび病	0.05kg/ha	収穫 21 日前まで	4 回以内	散布
	褐眼病 さび病 <i>Phoma</i> <i>costarricensis</i>				土壌灌 注

6. 作物残留試験結果

(1) 分析の概要

① 分析対象の化合物

アゾキシストロビン

② 分析法の概要

試料をアセトンで抽出後、多孔性けいそう土カラムクロマトグラフィー、ヘキサン・アセトニトリルで分配し、フロリジルカラムクロマトグラフィー及びシリカゲルカラムクロマトグラフィーで精製し、高速液体クロマトグラフィーで定量する。

検出限界 0.003~0.5ppm。

(2) 作物残留試験結果

① 稲

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を 50g/箱（箱施用）、及び 1.5%粒剤を計 3 回散布（4kg/10a）したところ、散布後 35~50 日の最大残留量^{注1)}は<0.01, <0.01 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を 50g/箱（箱施用）、及び 0.6%粒剤を計 3 回散布（4kg/10a）したところ、散布後 14~28 日の最大残留量は 0.01, 0.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を 50g/箱（箱施用）、及び 8%フロアブルの 1,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 13^{注2)}~28 日の最大残留量は 0.04, 0.02 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験(2例)において、6%粒剤を 50g/箱（箱施用）、及び 8%フロアブルの 1,000 倍希釈液を計 3 回散布（150L/10a）したところ、散布後 14 日の最大残留量は 0.03, 0.04 ppm であった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び8%フロアブルの8倍希釈液を計3回無人ヘリ散布（800mL/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は<0.01, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（玄米）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び20%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布（25L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は0.02, 0.02 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び1.5%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後35～50日の最大残留量は0.84, 0.99 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び0.6%粒剤を計3回散布（4kg/10a）したところ、散布後14～28日の最大残留量は1.14, 0.54 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後13^{注2)}～28日の最大残留量は0.54, 0.94 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び8%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布（150L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.52, 0.94 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び8%フロアブルの8倍希釈液を計3回無人ヘリ散布（800mL/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.64, 1.64 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

稲（稲わら）を用いた作物残留試験（2例）において、6%粒剤を50g/箱（箱施用）、及び20%フロアブルの500倍希釈液を計3回散布（25L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は2.32, 1.07 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

②小麦

小麦（種子）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの原液を8mL/kg（種子処理）、並びに800倍希釈液（根雪前）及び2,000倍希釈液を計3回散布（いずれも100L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.02, 0.10 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

③だいず

だいず(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(200~250L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.02, 0.01 ppmであった。

だいず(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの8倍希釈液を計2回無人ヘリ散布(800mL/10a)したところ、散布後21日の最大残留量は<0.01, 0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

④あずき

あずき(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(120L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は0.01, 0.01 ppmであった。

⑤いんげんまめ

いんげんまめ(乾燥子実)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(150~300L/10a)したところ、散布後160~175日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑥てんさい

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計3回散布(200L/10a)したところ、散布後14~30日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

てんさい(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、17%フロアブルの1,000倍希釈液を計3回散布(150L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑦だいこん

だいこん(根部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(107~250L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

だいこん(葉部)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布(107~250L/10a)したところ、散布後14~28日の最大残留量は0.44, 0.14 ppmであった。

⑧かぶ

かぶ(茎葉)を用いた作物残留試験(2例)において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布(200L/10a)したところ、散布後7~21日の最大残留量は2.36, 8.64 ppmであった。

かぶ（根茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.02, 0.04 ppmであった。

⑨はくさい

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（1例）において、20%フロアブルの原液を8mL/kg（吹付コーティング）、及び2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.10 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

はくさい（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.06 ppmであった。

⑩キャベツ

キャベツ（葉球）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は0.08, <0.01 ppmであった。

⑪こまつな

こまつな（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（214～400L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は<0.1, 2.5 ppmであった。

⑫大山そだち

大山そだち（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（300L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は0.76, 2.19 ppmであった。

⑬サガミグリーン

サガミグリーン（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（300L/10a）したところ、散布後21日の最大残留量は0.86, 0.92 ppmであった。

⑭しろな

しろな（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は0.12, 2.34 ppmであった。

⑮畑わさび（花穂を除く）

畑わさび（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は5.86, 11.8 ppmであった。

畑わさび（根茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（300L/10a）したところ、散布後7～28日の最大残留量は0.82, 0.73 ppmであった。

⑯エンダイブ

エンダイブ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（200L/10a）したところ、散布後21～35日の最大残留量は<0.05, 1.18 ppmであった。

⑰レタス

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（200～300L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は1.52, 2.94 ppmであった。

レタス（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を3000L/10a（土壌灌注）及び2,000倍希釈液を計2回茎葉散布（200～300L/10a）したところ、散布後7～14日の最大残留量は2.4, 2.5 ppmであった。

⑱たまねぎ

たまねぎ（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.02, <0.01 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑲根深ねぎ

根深ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（180～300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.96, 0.20 ppmであった。

⑳葉ねぎ

葉ねぎ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は1.42, 1.20 ppmであった。

㉑にんにく

にんにく（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（300, 150L/10a）したところ、散布後7～21日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

②にら

にら（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（150～200L/10a）したところ、散布後14日の最大残留量は1.10, 2.42 ppmであった。

③アスパラガス

アスパラガス（茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（250～300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.83, 0.13 ppmであった。

④らっきょう

らっきょう（鱗茎）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（150L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は0.02, 0.02 ppmであった。

⑤にんじん

にんじん（根部）を用いた作物残留試験（2例）において、4.8%フロアブルの1,000倍希釈液を計2回散布（200～400L/10a）したところ、散布後21～28日の最大残留量は0.02, <0.01 ppmであった。

⑥パセリ

パセリ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（250L/10a）したところ、散布後45～60日の最大残留量は0.05, 0.33 ppmであった。

⑦みつば

みつば（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計1回散布（100L/10a）したところ、散布後14～21日の最大残留量は1.6, 1.7 ppmであった。

⑧トマト

トマト（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1,500倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～8日の最大残留量は0.40, 0.09 ppmであった。ただし、この試験は、適用範囲内で行われていない。

⑨ピーマン

ピーマン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.18, 1.28 ppmであった。

⑩なす

なす（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.26, 0.58 ppmであった。

⑪きゅうり

きゅうり（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの1000倍希釈液を100mL/株（株元灌注）、及び1,500倍希釈液を計3回散布（150～300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.20, 0.48 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑫かぼちゃ

かぼちゃ（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（293.3～300L/10a）したところ、散布後1～14日の最大残留量は0.3, 0.3 ppmであった。ただし、これらの試験は適用範囲内で行われていない。

⑬すいか

すいか（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（168～300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.01, <0.01 ppmであった。

⑭メロン

メロン（果実）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（300L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は<0.01, <0.01 ppmであった。

⑮オクラ

オクラ（茎葉）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計2回散布（180～250L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は1.22, 1.06 ppmであった。

⑯さやえんどう

さやえんどう（さや）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計3回散布（200L/10a）したところ、散布後1～7日の最大残留量は0.28, 1.30 ppmであった。

⑰みょうが

みょうが（花穂）を用いた作物残留試験（2例）において、20%フロアブルの2,000倍希釈液を計4回散布（3000L/10a）したところ、散布後3～14日の最大残留量は